
健康第一！

芸熊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

健康第一！

【Nコード】

N0035N

【作者名】

芸熊

【あらすじ】

お題SS

お題：野菜ジュース

新婚、子無し夫婦の朝のやりとり。

「今日も元気におはよう」

休日の朝、嫁が俺の体にダイブしてきた。
日曜だってのに。

肋骨が何本かイッたかな。
ははは。

「日曜だよ。日曜」

「うん、知ってる」

「外もこんなにいい天気」

嫁は一気にカーテンを引き、朝日を部屋の中に取り入れた。
と言うか、朝日。
今何時だ。

「今、何時」

「朝七時」

おいおい、昨日散々晩酌付き合わせておいて朝七時に起こすかよ。
しかも何だこの元気。

「朝から元気なのは良いが、何か飲み物をくれ」

「ふふふー。そう言うと思ってました。飲んで疲れた胃に『野菜
ジュース』です」

「お前。俺が苦手なの知ってるだろ」

そう返したのにも関わらず、嫁は捨てられた子犬のような目で俺

を見る。

ああ、そうだ。

俺はこの目に弱いんだ。

昔からだ。

大学時代にサークルの後輩として入ってきてから、こいつはこの目で俺を黙らせる。

「分かったよ。飲むよ」

嫁は急にパアツと顔が明るくなり笑顔が溢れる。

そうそう。

あの目の後にこの笑顔が堪らないんだ。

俺も嬉しくなり、一口野菜ジュースを飲む。

「ぶほおっ。なんだこれ。なんか辛、いやしょっぱい。ん、甘い」

俺の味覚は一瞬にして混乱のうちに至った。

「へへへー。私特製野菜ジュースです」

「お前、何入れた」

「えーっとね、ほうれん草でしょ、にんじんでしょ、チョコレイトで」

「ちょっと待て。全部生か」

「当たり前じゃん」

満面の笑みでそう答える嫁に俺は何も言えなくなった。

「隠し味は入れた」

「もちろん」

「何を」

「隠し味なんだから隠さないと意味無いでしょー」

「そうだけど、大体予想は付いてるんだ。生姜とかこしょうとか入れただろ」

「すごーい、よく分かったね」

独特の生姜風味が主張し、喉に引つかかるこしょうの辛味。
分からないわけがなからう。

「うん、やっぱり俺がご飯係でよかった」

「えー、どういことー」

嫁はぶーぶー文句をたれながら、起き上がる俺にしがみつく。

「さて、起きるか。朝飯何が良い」

「野菜ジュース」

「さっき飲んだだろ」

「えー、旦那の作った野菜ジュースが飲みたいー」

「しょうがないなあ、分かったよ」

――ギューイ

野菜ジュースを作るミキサーの音が部屋に響いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0035n/>

健康第一！

2010年10月28日07時10分発行